

大東文化大学 語学教育研究所所報

No. 48

2025 年 3 月

目 次

2024（令和 6）年度活動報告	1
2024 年度 語学教育研究所運営委員及び研究員	2
研究員紹介	2
研究発表会	3
講演会	5
『語学教育研究論叢』第 42 号募集要項	7
『語学教育フォーラム』第 40 号原稿募集のお知らせ	8
購入図書一覧	9
刊行物についてお知らせ	10
語学教育研究所 創設 40 周年記念プロジェクト	10

2024（令和 6）年度活動報告

語学教育研究所所長

渡辺 良彦

語学教育研究所（以下、語研）は昨年度創設 40 周年という節目の年を迎え、記念プロジェクトとして『語学教育研究論叢』（1 号～40 号）総目録・索引検索データベースを完成いたしました。引き続き今年度は、『語学教育研究論叢』第 42 号を語研創設 40 周年記念号として無事に刊行することができました。集稿から査読・編集・校正・刊行に至るまでの一連の作業を辛抱強くかつ丁寧に進めていただいたことに対しまして、小野尚之先生を編集委員長とする編集委員会の皆様方には心から感謝申し上げます。

『語学教育研究論叢』第 42 号には通常の掲載論文のほかに、記念寄稿として中国語、英語、日本語、ドイツ語、フランス語の 5 つの語種ごとに、外国語学部をご退職された方々からご寄稿いただいた論考が掲載されております。執筆者（敬称略）は、丁鋒、中尾千鶴、中込啓子、中村隆之、中道知子の 5 名です。第 42 号の通常の掲載論文は計 10 本（論文 9 本、研究ノート 1 本）です。内訳は専任教員 7 本、非常勤講師 2 本、院生 2 本となっております。研究領域別では中国語学文体論 1 本、中国語学 1 本、中国語学語彙史 1 本、中国語学語彙論 1 本、英語学 1 本、日本語学 3 本、日本語史 1 本、言語文化バイリンガリズム 1 本となっています。今年度は『語学教育フォーラム』第 40 号には投稿がございませんでした。次年度に再度第 40 号の募集をかけます。

今年度の研究発表会は、すべてオンライン開催でした。3 回の日程中、研究員 7 名による最新の研究成果が披露されました。そのテーマは日独関係史、中国人留学生と法政資料、構文文法、日本語の副詞の文法・語法、日英語の語彙形成、旅行記文学、新しいメディアと政治風刺など多様な分野に及び、外国語学部における学術交流を大いに促進するものとなりました。

中国語・英語・日本語・ドイツ語・フランス語の 5 部会による講演会は各学科の先生方のご協力により、Zoom によるオンライン開催 1 件を除きすべて対面で実施されました。部会長のクリスティアン・W・シュパング先生をはじめ、運営委員の趙葵欣先生・ジェフリー ジョンソン先生・上村圭介先生・小野寺賢一先生・白井春人先生及び各関係者から多大のご支援を賜りました。皆様方には深く感謝申し上げます。講演会の講師（敬称略）および演題のみを以下に記します。ダンカン ホワイト「冷戦とスパイ小説」、沈国威「学習語彙と言語能力」、小倉孝誠「外国語を学ぶことで何が変わるのか」、貞包和寛「<僕> とは誰か？日本語の 1 人称代名詞を考える」、川村陶子「国際関係史のなかの自国語普及」の 5 件で、いずれも話題性に富む多彩な内容でご講演くださり、この場を借りて深く感謝申し上げます次第です。

今年度もすべての業務が計画通り滞りなく遂行されました。これもひとえに運営委員・研究員・事務職員の皆様方のご協力とご尽力の賜物と言えます。1 年間大変お世話になりました。来年度（2025）も引き続き研究活動および情報発信の充実に努める所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

2024 年度 語学教育研究所運営委員及び研究員

2024 年度 語学教育研究所運営委員

所 長	渡辺 良彦	外国語学部英語学科
研究部会長	クリスティアン・W・シュパング	外国語学部英語学科
学 部 長	山口 直人	外国語学部中国語学科
学科主任	竹島 毅	外国語学部中国語学科
学科主任	姫田 麻利子	外国語学部英語学科
学科主任	須田 義治	外国語学部日本語学科
研究科委員長	須田 義治	外国語学部日本語学科
委 員	趙 葵欣	外国語学部中国語学科
委 員	ジェフリー ジョンソン	外国語学部英語学科
委 員	小野寺 賢一	外国語学部英語学科
委 員	白井 春人	外国語学部英語学科
委 員	上村 圭介	外国語学部日本語学科

2024 年度 語学教育研究所研究員

部会長	クリスティアン・W・シュパング	外国語学部英語学科
研究員	秋山 淳	外国語学部中国語学科
研究員	吉田 慶子	外国語学部中国語学科
研究員	小野 尚之	外国語学部英語学科
研究員	ショーン ディヘヴン	外国語学部英語学科
研究員	野澤 督	外国語学部英語学科
研究員	大塚 貴史	外国語学部日本語学科

研究員紹介

氏名： クリスティアン・W・シュパング
 所属： 外国語学部英語学科（ドイツ語）
 分野： 日独関係史・ドイツ語教育

氏名： ショーン ディヘヴン
 所属： 外国語学部英語学科（英語）
 分野： 比較文化、言語教育の研究

氏名： 秋山 淳
 所属： 外国語学部中国語学科（中国語）
 分野： 中国語学／中国語教育

氏名： 野澤 督
 所属： 外国語学部英語学科（フランス語）
 分野： フランスの旅行記文学・文体論

氏名： 吉田 慶子
 所属： 外国語学部中国語学科（中国語）
 分野： 多文化共生と中国語

氏名： 大塚 貴史
 所属： 外国語学部日本語学科（日本語）
 分野： 日本語学

氏名： 小野 尚之
 所属： 外国語学部英語学科（英語）
 分野： 語彙論・語形成の研究

第1回

日 時：2024年6月3日（月）

第1発表

発表者：クリスティアン・W・シュパング

題 目：昭和初期の在日ドイツ人：『ナチス党员記録日本』（米占領軍編纂）の分析

概 要：戦後、米軍は「Nazi Party Membership Records Japan」を編纂した。そのリストには党员 429 人の氏名、党员番号、生年月日と加入日、住所、仕事が記載されており、それに基づいて、在日ドイツ人のナチたちについて論じる。興味深いトピックは、在日ナチスの年齢構成だ。リストには何人の女性が載っているか。夫より先に入った妻はいたか。ドイツの外交官や軍人の代表は全員ナチ党员だったか。その時のドイツ人の留学生や日本の学校で教えたネイティブの教師はどうだったか。発表で様々な表やケーススタディを使用して説明する。

第2発表

発表者：吉田 慶子

題 目：『訳書彙編』における近代憲政概念の紹介 — 「政法片片録」の調査を中心に

概 要：1900年12月6日に東京で発行された『訳書彙編』は、当時の中国人留学生による初期の法政資料として広く知られている。『訳書彙編』は1901年にかけて12刊、続く年にも12刊が発行されたが、1903年4月に『政法学報』と改名され、8刊が刊行された後に閉刊した。本調査は、『訳書彙編』に掲載されている「政法片片録」の憲政概念にめぐる紹介を通じて、当時の中国人留学生が自強意識をもとに近代立憲国家の形成を模索し、日本を通じて世界の情報を収集する様子を明らかにすることを目的とする。

第2回

日 時：令和6年10月28日（月）

第1発表

発表者：秋山 淳

題 目：把構文に対する一考察

概 要：中国語は“我爱你”“我看了一本书”のように英語と同じ NP1(S)+V+NP2(O)の語順を取ることは知られているが、いわゆる目的語を“把”で動詞より前に置く“他(NP1)把生日礼物(NP2)带来(V)了”も存在する。本発表では、中国ドラマで実際に使われているデータを用いて、構文文法の観点から、把構文を考察するものである。

第2発表

発表者：大塚 貴史

題 目：副詞「必ず」の意味と生起条件に関する論点の整理

概要：現代日本語の副詞「必ず」については、従来、その意味（どのようなことを表すか）と生起条件（どのような文において、どのような述語と共に使用されるか）について様々な指摘・主張がなされているが、両者の関係については不明瞭な点が多い。この関係を解き明かすに当たり、まずは従来の研究における指摘・主張を吟味し、論点を整理する。

第3回

日時：令和6年11月18日（月）

第1発表

発表者：小野 尚之

題目：語彙の創造性－日英語の重複語形成から－

概要：本発表では、語が生まれる仕組みについて考えてみたい。日本語にも英語にも同じ名詞を繰り返す重複語（畳語）という語のかたちがある。今回取り上げるのは、「コーヒーコーヒーしたコーヒー」のような表現と coffee-coffee のような表現である。両者には、口語的にしか用いられない表現であることや、それぞれの語彙の中で例外的な特徴をもつといった共通点がある一方で、生産性や表現する意味の範囲に違いが見られる。そのような違いがあるのは、この重複語の元になった語形成が異なるからであり、さらにそれは、両言語における語形成の構造的な違いに結びついているということを論じる。

第2発表

発表者：野澤 督

題目：廃墟に向く視線

－デュパティの描くポンペイ、ヘルクラネウム、パエストゥム

概要：1785年にフランス人の法律家デュパティはイタリアを旅行して、その旅を記した書簡をまとめた旅行記を発表している（『イタリアに関する書簡－1785』、1788）。この旅行記は当時よく読まれたことで知られている。本発表では、ロマン主義的テーマのひとつである廃墟をキーワードに、デュパティが南イタリアのポンペイ、ヘルクラネウム、そしてパエストゥムで何を描いているのかを報告しながら、旅行者が視線を向けた廃墟に何を見ていたのかを考察する。

第3発表

発表者：ショーン ディヘヴン

題目：新しいメディアにおける政治風刺：

日本のYouTube政治コメディアン の視点と分析

概要：In recent years, Japanese comedians dealing with political humor have bypassed traditional media for new media such as YouTube. This study looks at these comedians, their perspectives, motivations, and analyses the content and style of their comedy.

近年、政治的ユーモアを扱う日本のコメディアンは、従来のメディアを飛び越えて、YouTubeなどの新しいメディアに進出しています。この研究では、これらのコメディアン の視点、動機などに注目し、彼らのコメディの内容とスタイルを分析します。

第1回

日 時：令和6年5月24日（金）

場 所：大東文化会館1階ホール

講演者：ダンカン ホワイト 氏

演 題：The Cold War and Espionage Fiction（冷戦とスパイ小説）

概 要：During the Cold War both East and West spent vast sums on waging a secret war on each other, using increasingly sophisticated espionage strategies. As a result, the work of spies became intimately entangled with the idea of the Cold War itself, to the point in which no genre of fiction is more closely associated with the Cold War than that of espionage. As a genre, espionage fiction has its roots in late nineteenth century, when anxieties over urban alienation, immigration, and rising global conflict gave a rise to sensationalist stories that played on the idea of the enemy within. During the Cold War, the genre was reinvented by a generation of British writer-spies, including Graham Greene, Ian Fleming, and John le Carré, who elevated the espionage thriller to a new form of literature. James Bond became emblematic of a certain kind of Cold War heroism, just as Greene and Le Carré's novels pulled at the fraying edges of a morally dubious conflict. This lecture will unpack the origins of this genre and seek to explain the ethics and politics of Cold War espionage fiction, ultimately arguing that these novels and films can be understood as a counternarrative to the West's hegemonic Cold War discourse.

第2回

日 時：令和6年11月23日（土）

場 所：Zoom によるオンライン開催

講演者：沈 国威 氏

演 題：学習語彙と言語能力

概 要：日常生活に用いる語彙と違って、いわゆる「学習語彙」は、学校教育の場で現代社会を生きる知識を学習するのに必須の語彙群であり、意識的に習得しなければならない。学習語彙の質と量は、外国語を含め言語能力の発達に密接な関係がある。今回の講演では近代における日中語彙交流の視点から学習語彙の形成史を押さえた上で、その特質と習得法について考えたいと思う。

第3回

日 時：令和6年12月11日（水）

場 所：大東文化大学板橋キャンパス3号館3-0111教室

講演者：小倉 孝誠 氏

演 題：外国語を学ぶことで何が変わるのか

概 要：大部分の学生は、大学に入ってから英語以外の外国語を学びます。学習する言語が何であれ、新たな外国語との出会いは新たな世界との出会いにつながります。人間が自己を知り、成長するためには他者と遭遇し、未知のものと対峙することが必要ですが、そうした他者や未知の典型が外国語でしょう。フランス語と文学の教員である講演者が、みずからのフランス語との出会い、若い頃の留学体験をまじえつつ、外国語と文学をつうじて世界と人間をどのように捉え直せるかを考えます。

第4回

日 時：令和6年12月11日（水）

場 所：大東文化大学板橋キャンパス 3号館 3-0210 教室

講演者：貞包 和寛 氏

演 題：〈僕〉とは誰か？ 日本語の1人称代名詞を考える

概 要：日本語の1人称代名詞〈僕〉は、一般的には男性が使用するものとされており、大部分の辞書にもそのように定義されている。しかし実際には、〈僕〉の使用と性別の関係は複雑である。現在でも女性アイドルや歌手が〈僕〉を使用する事例は多いが、この現象は決して新しいものではない、女性による〈僕〉の使用は明治時代から観察されているからである。本講演では、近年の研究や歌詞などを参照し、代名詞〈僕〉の機能について議論を交わしたい。

第5回

日 時：令和7年1月9日（木）

場 所：大東文化大学東松山キャンパス 6号館 601 教室

講演者：川村 陶子 氏

演 題：国際関係史のなかの自国語普及

概 要：近現代において、ことばは〈くに〉すなわち国民国家の形成発展に大きな役割を果たしてきました。国民国家と言語の関係といえば共通語整備や国語教育が思い浮かびますが、自国民以外の人びとへ自国語を伝え、広める政策もまた、国際社会における〈くに〉の位置を確かなものにする行為として自覚的におこなわれています。この講演では自国語普及を軸としてきたドイツの対外文化政策の歴史を概観し、国際関係におけることばと〈くに〉の関係について考えます。

原稿募集要項

語学教育研究論叢第 42 号

(語学教育研究所創設 40 周年記念号)

語学教育研究所所長 渡辺 良彦
論叢編集委員長 小野 尚之

下記の通り原稿を募集します。奮って御執筆くださるようお願い致します。

内 容： 言語研究・語学教育に関する論文（書評、研究ノート、資料等も可とする）。
文学作品等を対象とする言語学・文献学等の方法を駆使した研究も含む。

資 格： 1. 本学外国語学部専任教員（客員教員、特任教員、助教を含む）
2. 本学外国語学部非常勤教員
3. 共同研究の場合は第一執筆者が該当者であること
4. 客員研究員、学外研究員、特別研究員
5. 本学大学院外国語学研究科博士課程後期課程に在籍の学生（推薦書が必要）
6. その他編集委員会が適格者として認めたもの（推薦書を必要とする場合もある）
※ 応募論文多数の場合は上記番号順に優先権を有する。

投 稿 申 込： 2024 年 5 月 14 日（火）から 2024 年 7 月 16 日（火）15：00 迄（必着）
「執筆申込書」をメールで添付送付すること。
To：語学教育研究所 daitogoken@gmail.com Cc：編集委員長 nono@ic.daito.ac.jp

所定の用紙： 執筆申込及び原稿提出の際に必要な以下の所定の書類は、語学教育研究所の HP に掲載する。
執筆申込書、原稿フォーマット、大東文化大学機関リポジトリ登録・公開許諾書、指導教員推薦書
語学教育研究所 HP <https://www.daito.ac.jp/research/laboratory/goken/>

原稿提出締切： 2024 年 9 月 13 日（金）15：00 迄（必着）

原稿提出先： 語学教育研究所 daitogoken@gmail.com 宛にメールで添付送付すること。
メール送付できない場合は、レターパックライト（青）による郵送での提出も可とする。
その場合は紙版とともに CD-R などのデータファイルを同封すること。
大東文化大学 語学教育研究所 〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1 (TEL：03-5399-7330)

原稿と一緒に提出するもの
(1)大東文化大学機関リポジトリ登録・公開許諾書
※Excel データの状態、語学教育研究所宛にメールで添付送付すること。
(2)指導教員の推薦書
※大学院後期課程の学生のみ、メール添付で提出、その際指導教員のアドレスを Cc で入れること。

投 稿 規 程： 1. 未発表の完成された原稿であること。
2. ワープロ原稿とする。横書き全角 38 字・35 行、欧文の場合は半角 70 字・35 行、それぞれ A4 用紙 15 枚以内とする（図版・レジュメを含む）。原則、HP の原稿フォーマットを使用のこと。指定ファイル以外の場合、フォント・サイズ等は原稿フォーマットのレイアウトと同様の設定をすること。1 ページあたりの文字数・行数等の規定を遵守せず、最終的に 15 ページを超えてしまった場合は、掲載をお断りする。書式、表記など、甚だしい誤字脱字などがある場合、受け付けないことがある。
3. 本文以外の言語のレジュメを論文の前に付すこと。欧文のレジュメの場合もそれに準ずる。（日本語、中国語は 400 字以内、欧文は 300 語以内）また、キーワードを 5 語前後、列挙すること。（本文の言語による）
4. 論文の題目は日本語及び中国語原稿には欧文、欧文原稿には日本語を付記する。
5. 欧文タイトルの書式は、編集委員会に一任すること。
6. 印刷所等は語学教育研究所に一任すること。
7. 抜刷り贈呈は 20 部とする。増刷分は個人負担とし、執筆申込書に増刷部数を明記する。
8. 提出された原稿の審査による採否及び、ジャンルの特定は一切編集委員会に任せること。
9. 母語でない言語での論文については、題目、要旨も含めて必ずネイティブ・チェックを受けること。
10. 投稿時には謝辞、補助金、執筆者が特定される記述等を書かないこと。謝辞等については、掲載が決まり、査読後の修正原稿提出時に規定のページを超えない範囲で加筆してよい。

校 正： 著者による校正は二校までとし、紙での校正を原則とする。内容、ヘッダー及びページ番号など、関連付随事項に関して、著者の責任において校正のこと。各校正の提出期限までに未提出の場合は、掲載を見合わせる場合がある。新規加筆は認められない。

発 行 日： 2025 年 3 月発行予定

問い合わせ先： 語学教育研究論叢 編集委員長 小野 尚之 (E-mail：nono@ic.daito.ac.jp)

以上

2024 年度『語学教育フォーラム』第 40 号原稿募集のお知らせ

大東文化大学語学教育研究所
所 長 渡辺 良彦
『語学教育フォーラム』第 40 号
編集委員長 吉田 慶子

『語学教育フォーラム』第 40 号（2025 年 3 月刊行予定）の原稿を下記の要領で募集いたします。

記

1. 募集原稿は、言語学・言語教育に関する論文（未発表のもの）、索引、未刊行言語資料の復刻、研究資料要覧、言語研究・教育に有益なデータ類、文学作品の言語学的分析等の分野のものとします。
2. 応募資格は著者、筆頭著者、または筆頭編者が以下の所属であることとします。ただし、編著の場合は編者が、共編著の場合は筆頭編者が応募資格を有することとします。また、優先順位は下記番号順とし、本制度を今までに利用されていない方を優先します。
 - ① 語学教育研究所研究員
 - ② 外国語学部専任教員
 - ③ 語学教育研究所客員研究員
 - ④ 外国語学部客員研究員
 - ⑤ 外国語学研究科客員研究員
 - ⑥ 他学部専任教員
3. 刊行形態としては以下の通りとします。（ただし、予算の関係上、変更を求める場合があります。）
ワープロ A4 判で、200 枚以内のもの。単体での刊行を原則とします。ただし、応募状況によっては複数論文から成る論文集として刊行します。和文・中文は 35 字×40 行、欧文は 65 字×40 行を目安とします。
4. 原稿は電子データとして提出してください。また、併せて印刷見本 1 部と PDF ファイルを提出してください。電子データの提出がない場合には受付できません。なお、電子データは原則として Microsoft Word 形式とします。それ以外の形式で提出された場合には、最終的な編集作業にご協力いただくことがあります。
5. 外国語による出版を希望される場合、ネイティブチェックを済ませた原稿を提出してください。なお、ネイティブチェックにかかる費用は著者の負担となります。
6. 完成原稿（カメラレディ原稿）を提出してください。校正はありません。
7. 執筆申込につきましては、執筆申込書を 2024 年 5 月 8 日（水）～7 月 17 日（水）15:00 迄に語学教育研究所まで提出してください。なお、執筆申込書は語学教育研究所の HP に掲載します。
8. 完成原稿は 2024 年 10 月 11 日（金）～11 月 8 日（金）15:00 迄に語学教育研究所まで提出ください（期限厳守をお願いします）。
9. 応募原稿は、研究所所長、語学教育フォーラム編集委員長および当研究所が依頼した審査委員によって審査をいたします。その結果によっては刊行不可能となる場合もございます。なお、審査結果は文書にて 12 月下旬（予定）までに通知いたします。応募論文数と予算との兼ね合いで、必要な場合には調整をさせていただく場合があります。
10. 本研究所の予算の制約により、審査で刊行可となった原稿が刊行に至らなかった場合、応募者が本研究所の指定に基づいて製作し、現物納入した完成誌を、本研究所は『語学教育フォーラム』として刊行できるものとします。

ご不明な点がございましたら、語学教育フォーラム編集委員長（keikoyoshi@ic.daito.ac.jp）および所長（yoshiboo@ic.daito.ac.jp）までお問い合わせ下さい。

以上

購入図書一覧

分野	書籍名	著者等	出版社
日本語	社会言語学 第24号	「社会言語学」刊行会	「社会言語学」刊行会
日本語	三省堂 例解小学国語辞典 第八版 オンライン辞書つき オールカラー	田近洵一 編	三省堂
日本語	現代日本語文法の基礎	奥田靖雄	むぎ書房
日本語	計量国語学事典 (新装版)	計量国語学会 編	朝倉書店
日本語	日本語 文章・文体・表現事典 (新装版)	中村明・佐久間まゆみ・高崎みどり・十重田裕一・半沢幹一・宗像和重 編	朝倉書店
日本語	スマホは辞書になりうるか ー日本語学習者の辞書引きの困難点と指導法ー	石黒圭・吉田・佐野彩子 編	明治書院
日本語	ことばのおもしろ事典	中島平三 編	朝倉書店
フランス語	ロマンスという言葉ーフランス語は、スペイン語は、イタリア語は、いかに生まれたか	小林標	大阪公立大学共同出版会
フランス語	地図で見るフランスハンドブック	ジャック・レヴィ	原書房
フランス語	第二言語習得研究が解き明かす外国語の学習	川崎眞理子他	くろしお出版
フランス語	フランス語の発想：日本語の発想との比較を通して	春木仁孝、岩男考哲	くろしお出版
フランス語	フランス語発音トレーニング[増補新版]	菊地歌子	白水社
フランス語	仏検対応 クラウン フランス語熟語辞典	久松健一	三省堂
フランス語	カリカチュアでよむ19世紀末フランス人物事典	鹿島茂他	白水社
フランス語	フランス教育システムの歴史	ヴァンサン・トゥロジェ他	白水社
フランス語	帰郷ノート/植民地主義論	エム・セゼール	平凡社
フランス語	2024年度版 1 級・準 1 級仏検公式ガイドブック	フランス語教育振興協会	駿河台出版社
フランス語	はじめてのDELTA A1	阿南婦美代	トレフル出版
フランス語	DELTA 傾向と対策 A1	小幡谷 友二	駿河台出版社
フランス語	DELTA 傾向と対策 A2	小幡谷 友二	駿河台出版社
フランス語	倉方フランス語講座 1 文法	倉方秀憲	トレフル出版
フランス語	倉方フランス語講座 2 語形成	倉方秀憲	トレフル出版
ドイツ語	Jewish Communities in Modern Asia: Their Rise, Demise and Resurgence	Kowner, Rotem	Cambridge UP
ドイツ語	Ausgegrenzt. Entlassungen an den deutschen Universitäten im Nationalsozialismus. Biogramme und kollektivbiografische Analyse	Grüttner, Michael	De Gruyter Oldenbourg
ドイツ語	地球の歩き方 ドイツ 2025~2026 (地球の歩き方A ヨーロッパ)	地球の歩き方編集室	Gakken
英語	Learning Vocabulary in Another Language	I. S. P. Nation	Cambridge University Press
英語	Meet Me by the Fountain : An inside History of the Mall	Lange, Alexandra	Bloomsbury Publishing USA
英語	CLIL in Context Practical Guidance for Educators	Genesee, Fred/ Hamayan, Else	Cambridge University Press
英語	Anne of Green Gables: A Graphic Novel	Brenna Thummler (イラスト), Mariah Marsden (著), Kendra Phipps (編集), Erika Kuster	Andrews McMeel Publishing
英語	Mabuhay!	Zachary Sterling	Graphix
英語	ESL Classroom Activities for Teens and Adults: ESL games, fluency activities and grammar drills for EFL and ESL students	Shelley Ann Vernon	CreateSpace Independent Publishing Platform
英語	Ghosts	Raina Telgemeier (著), Braden Lamb (寄稿)	Graphix
英語	How to Tell a Story : The Essential Guide to Memorable Storytelling from the Moth	Moth, The/ Bowles, Meg/ Burns, Catherine	Short Books Ltd
英語	The Moth: Occasional Magic : 50 True Stories of Defying the Impossible	Moth, The/ Burns, Catherine (EDT)/ Burns, Catherine (INT)	Serpent's Tail
中国語	Dramatized Discourse	Zhuo Jing Schmidt	John Benamins
中国語	現代漢語動補式復合詞研究	閻麗雲	社会科学文献
中国語	賓語-対外漢語教学語法叢書	郭曉麟	北京語言大学
中国語	現代漢語結果範疇研究 [jin4]	開宇	吉林大学

刊行物についてお知らせ

『語学教育研究論叢』第 42 号 語学教育研究所創設 40 周年記念号（2025 年 3 月刊行）

令和 7 年 5 月に『語学教育研究論叢』第 43 号・『語学教育フォーラム』第 40 号の原稿を募集します。
奮ってご応募ください。

語学教育研究所 創設 40 周年記念プロジェクト

- ・『語学教育研究論叢』第 42 号を記念号として刊行しました。
- ・『語学教育研究論叢』（1～40 号）総目録・索引検索データベースを語学教育研究所のホームページに公開しています。ご活用ください。

お気づきの点がございましたら当研究所までお知らせください。

以上

大東文化大学語学教育研究所所報 No. 48

2025 年3 月 1 日

編集発行 大東文化大学語学教育研究所

〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1

電 話 03-5399-7330

E-mail: daitogoken@gmail.com

<https://www.daito.ac.jp/research/laboratory/goken/>